あいち農産物生産流通レポート

平成２０年１０月号

◎情報サロン
・「ふるさと農林水産フェア・秋」 -------- １
～美味しさ満載、愛・地産～　１１月開催　（食育推進課）

◎地域トピックス
・愛知豊明花き地方卸売市場における品質管理の高度化への取組について -------- ２
（尾張農林水産事務所）

◎東日本情報
・ハウスみかんを考える -------- ３
（東京事務所）

◎西日本情報
・「愛知県菜の花エコプロジェクト交流会」を開催しました -------- ５
（食育推進課）

◎フラワーページ
・切り花の輸入で思うこと -------- ８
（米村花きコンサルタント　米村浩次）

◎青　果
・愛知産青果物の動向（名古屋・東京市場） -------- ９
・名古屋・東京市場における青果物の１０月の見通し -------- １０

◎花　き
・切花・鉢花の１０月の見通し（県内市場） ---------- ２２

◎輸出入
・主要農産物の輸出入実績（２００８年７月） ---------- ２６

◎関連指数 ---------- ２７

内容についての問い合わせ先
愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ　(03)-5492-5400
愛知県農林水産部食育推進課　(052)-954-6417

情 報 サ ロ ン

食 育 推 進 課

「ふるさと農林水産フェア・秋」
～おいしさ満載、愛・地産～　１１月開催

大盛況！！　昨年10月「ふるさと農林水産フェア・秋」

県民の皆さんに愛知県の農林水産業や農山漁村の文化に触れ、食育や地産地消について楽しく学んでいただくため、「ふるさと農林水産フェア・秋」を開催します。

新鮮な農林水産物やふるさと産品の販売をはじめ、企画展示やステージイベントなど、家族揃って楽しめる約１８０ブースの出展で盛り沢山の内容です。また、山里の文化等を体感できる「三河の山里体感プラザ2008」も同時開催されます。

１　開催日時

平成２０年１１月７日（金）～９日（日）　各日とも午前１０時から午後５時まで

２　会　　場

吹上ホール（名古屋市千種区吹上２丁目６番３号）

３　内　　容

◇　県内の新鮮な農林水産物やふるさと産品の展示と販売（ブース出展）
◇　山里の自然や文化などの魅力を紹介する「三河の山里体感プラザ2008」
◇　「お米」の大切さに迫る～過去から現在～
　　遺跡発掘品展示や米加工品各種展示・試食・米関連の体験
◇　ご当地自慢「あいちの伝統野菜」の実物展示と試食等
◇　小泉武夫（こいずみたけお）氏（東京農大教授）と針塚藤重（はりづかとうじゅう）氏（針塚農産代表）トークショー
　　など内容盛り沢山

４　入場料金（中学生以上）　＊小学生以下無料

前売　８００円（５００円相当のお買い物券付き）
当日　１,０００円（５００円相当のお買い物券付き）、６００円（入場料のみ）
　　前売券は９月８日（月）から主要プレイガイド、チケットぴあ、主要コンビニエンスストア、中日新聞販売店などで販売開始

５　主　　催

ふるさと農林水産フェア・秋実行委員会
（構成：愛知県、名古屋市、中日新聞社、東海テレビ放送）

６　問い合わせ先

愛知県農林水産部食育推進課　消費・食品流通グループ　電話052-954-6434（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
三河の山里活性化事業実行委員会事務局　電話052-954-6097（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
中日新聞社　社会事業部　電話052-221-0732（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
ホームページ　http://event.chunichi.co.jp/furusato/

地域トピックス

尾 張 農 林 水 産 事 務 所

愛知豊明花き地方卸売市場における品質管理の高度化への取組について

愛知豊明花き地方卸売市場は、平成８年３月、豊明市阿野町に開場し、平成１９年の鉢物取扱高は１４２億円で全国第１位を誇っています。

近年、花き市場においても商品の鮮度保持を始め品質向上に対する要求はますます高くなっています。そこで、愛知豊明花き地方卸売市場が、今夏から新たに取り組んだ夏期の高温対策を紹介します。

○市場棟の屋根散水装置の設置

卸売場等のある市場棟の面積は約１万６千㎡で、屋根は鉄板で覆われていますので、夏場の高温期には、花きの品質や労働環境の低下などが心配されていました。その対策として様々な方法を検討した結果、環境にやさしい屋根散水を導入することとしました。

市場棟の外観

今回、市場棟を冷却するため、その３層の屋根に１５基の散水装置（スプリンクラー）を設置しました。この水源は、新たに掘削した井戸により地下７５メートルからくみ上げる水温１４℃の地下水を利用しています。

市場棟屋上の散水装置

屋根に設置されたセンサーの温度が３３℃を超えると自動的に散水を開始し、かすかな雨音とともに卸売場内の温度が低下するという仕組みです。

今年のような猛暑でも、卸売場は、植物にも働く人にも快適になりました。

○洋らん用定温庫の機能強化

卸売場には、従来から洋らんの一時保管用に加温のできる定温庫が設置されていましたが、このたび、冷暖房ともに可能な空調設備に更新しました。

卸売場の洋らん用定温庫

定温庫は、面積が８８０㎡あり、夏期は２６℃、冬期は１２℃に設定し、年間を通して使用することができるようになりました。

これにより、高温期・低温期とも洋らんの品質管理が万全となりました。

愛知豊明花き地方卸売市場では、今後も引き続き品質管理の高度化に取り組み、より一層高品質な花きの流通をめざしています。

東 日 本 情 報

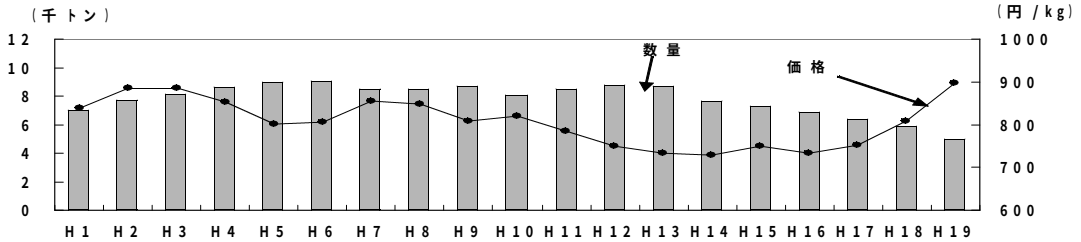
ハウスみかんを考える

東京事務所行政課農産物流通対策グループ

ハウスみかんは６月下旬から７月のお中元には、無くてはならない果物の一つであり、消費者からは、品質が安定しているので安心して贈れるとのことからお中元の定番アイテムの１つとなっている。しかし、重油の価格は県内で平成１６年は１リットル３０円台であったものが、平成２０年産の加温開始時期に７０円となり、終盤は８０円、一時期１２０円台にまで高騰した。そこで、本年の東京都中央卸売市場におけるハウスみかんの販売状況から今後の対応について考えてみたい。

○昨年までの動向

図１　ハウスみかんの入荷状況の推移（都中央）

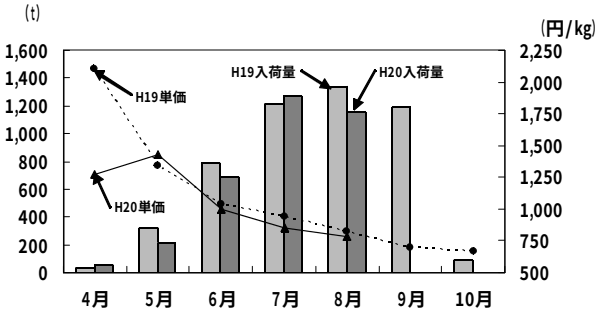


東京都中央卸売市場におけるハウスみかん入荷量は、平成６年の９，０５０ｔを最高に平成１３年までは８千ｔ台を維持していたが、その後は一貫して減少傾向にあり、平成１９年の入荷量は平成６年の約半分まで落ち込んでいる。一方、販売価格は平成１１年以降低迷を続けていたが、平成１６年を底に上昇に転じ、平成１９年には近年の最高値を記録しているものの、入荷量の減少には歯止めが掛かっていない。

○今年の入荷・販売状況

平成２０年産は燃料が高騰し、同市場における８月までのハウスみかん入荷量は、３，３６４ｔ（前年比９１％）、うち愛知産は３３８ｔ（同７４％）と大きく前年を下回った。

図2　ハウスみかん入荷状況（都中央）



４月は前年の高値の影響からこの時期に出荷する作型が増加し、入荷量は前年比１４１％となり、単価は前年を下回ったが、５月は入荷量が減少し価格は前年を上回った。しかし、６月は、入荷量が前年を下回ったにもかかわらず、価格は前年並であった。

７月はお中元、８月は旧盆と、ハウスみかんの需要期となるが、贈答で使用されるＭ級のみ引き合いが強かったものの、全体的な価格は前年を下回った。これは景気の減速の影

響を受け、贈答需要が振るわなかったためと考えられる。

○本県産ハウスみかんのあり方

表　平成19年レギュラーの産地別価格

（東京青果）

産　地	価 格（円/kg）
大　分	959
佐　賀	930
愛　知	1,082
愛　媛	941
長　崎	890

レギュラーハウスみかんの生産量は、重油価格の高騰により、今後も減少すると予想されるが、果専店の仕入れ担当者からは「お中元商材として本県産ハウスみかんは品質が高く、無くてはならない品目であり、来期もお中元商材として期待している」といった我々がうれしくなるような意見もいただいている。しかし、一方で、「あまり単価が高くなりすぎると、ゼリーやジュースなど他の商材に変わる可能性がある。」（仲買業者）との話もあり、これらのことから売れる商品（ブランド品）と売れない商品との差が明確になってくることが推測される。

愛知産はブランド品であり、これまで築いてきた品質など消費者の信頼を裏切らないような栽培管理や品質管理に徹することで、他産地との差をつけるチャンスと考えられる（上記表参照）。

○グリーンハウスみかんの状況

図3　ハウスみかんに占めるｸﾞﾘｰﾝﾊｳｽ（H19、東京青果）

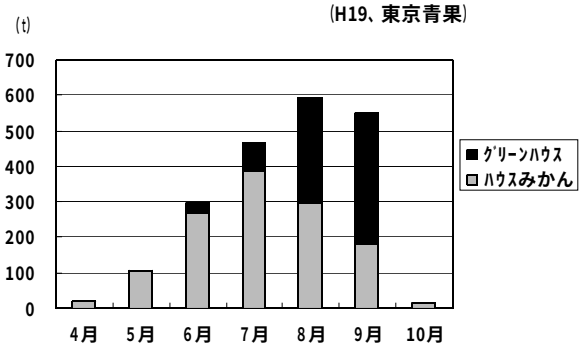
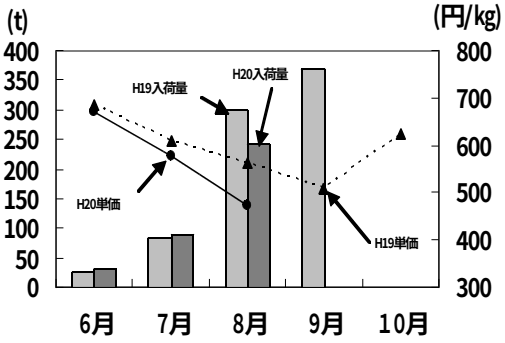


図4　グリーンハウス入荷状況（東京青果）



グリーンハウスみかんは完全着色のレギュラーに対して緑色（グリーン）を残して出荷することで、次年度作型の前進、樹への負担や重油の使用量が少なくて済むことなどから、佐賀を中心に全国の産地で導入された。東京青果では、ハウスみかんの入荷量の３９％（H19）を占める。今年度の東京青果の８月までの入荷量は、昨年より１割ほど減少しているにもかかわらず、８月の平均単価は前年に比べ約１００円ほど低下している。着色の進みすぎや食味の点で消費者離れが進んでいるからであり、今後も減少傾向は続くと思われる。

■　グリーンハウス

ハウス内の温度や水を加減し、栽培したみかんで、「極早生」と見た目は同様の５～７分の着色。糖度は普通のハウスみかんよりやや低いが、すっきりとした味で、「爽やかな香りとジューシーさ」がある。加温時期を早くしたり、省加温栽培で燃料の使用量が少ないため、一時期増加したが、近年栽培面積は減少傾向にある。

■　レギュラー

グリーンハウスに対して通常のハウス栽培により生産されたものはレギュラーと言われる。

西 日 本 情 報

食 育 推 進 課

「愛知県菜の花エコプロジェクト交流会」を開催しました

循環型社会づくりに向けた取組のひとつである「菜の花エコプロジェクト」(☆)に対する県民の方々の理解をさらに深め、活動の輪を広げるため、県内で活動している団体や関係機関を集めて、愛知県菜の花エコプロジェクト交流会「菜の花エコプロジェクトの輪をひろげよう～みんな集まれ！大交流会～」を開催しました。

○　開催日時
　平成２０年８月２６日（火）　午前１０時３０分～午後４時３０分
○　開催場所
　名古屋市東区　ウィルあいち３階大会議室
○　参加者
　１２７名
○　主　　催
　愛知県、　ＮＰＯ法人あいち菜の花活用推進協議会
○　内　　容
① 県内の菜の花エコプロジェクト活動団体の展示・活動内容紹介

１０団体が展示や活動内容を紹介しました

② 基調講演
「菜の花プロジェクト活動の拡大に向けて～個人・団体・行政等がどう関わっていくか～」というテーマで、ＮＰＯ法人菜の花プロジェクトネットワーク代表藤井絢子さんに、全国の菜の花プロジェクトの活動状況、ＢＤＦの取組などについての講演をしていただきました。

③ パネルディスカッション

ＮＰＯ法人菜の花プロジェクトネットワーク代表藤井絢子さんをコーディネーターに、パネラーに県内の菜の花エコプロジェクト活動団体（太田油脂㈱、小牧市女性の会、ＮＰＯ法人田原菜の花エコネットワーク、ＮＰＯ法人豊田・加茂菜の花エコプロジェクト）と愛知県農業総合試験場総括研究員を迎え､「菜の花プロジェクト活動によるまちづくり」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。

はじめにパネラーの所属する団体の活動内容の紹介、活動する中で出てきた問題点などについて話をしていただきました。

各団体の紹介後、太田油脂㈱からは搾油機の処理能力、小牧市女性の会や田原菜の花エコネットワークからは、小学生に対する環境学習の実施など、藤井さんの質問に対してそれぞれ話をしていただきました。

藤井さんからは、バイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）について、きちんとした品質の確保を強く求められました。

菜の花プロジェクトネットワーク代表
藤井絢子さん

パネラーの皆さん

○　講演を含めた全体を通じての質疑応答では、参加者からパネラーの皆さんに対して、栽培方法や搾油などについて多くの質問があり、予定時間を超えているにもかかわらず親切に答えてくださいました。

また、休憩時間などには、展示物を前にして参加者と活動団体が熱心に話をしている姿や活動団体どうしの交流の輪がいたるところで見られ、菜の花エコプロジェクトに対する理解や、活動の広がりに役立てていただけたのではないかと感じています。

☆ 菜の花エコプロジェクトとは ☆

菜の花を栽培して、なたねから油をしぼり、油かすは肥料や飼料に利用する一方で、食用に利用したなたね油の廃油を回収し、軽油代替燃料(BDF)などに再生利用すること等を推進するもので、資源循環型社会の形成を目指す取組の一つです。

フラワーページ

米村花きコンサルタント　米村浩次

切り花の輸入で思うこと

このところケニア、インド、マレーシア、中国などの切り花産地を見て歩いている。日本から見て輸入量の多い注目される国々である。

これらの国の生産状況を見ると、花の輸入が増える要因は何なのでろうかということをあらためて考え直したい気になる。国産品に対する誤った信仰のようなものを我々は持っていないかと考えてしまう。たとえば、国産品は、品質がよい、新鮮だ、安心で信用できる、国内物流がよい、トレサビリティがしっかりしているなど、普通はこのように信じられているが、これらにはかなりの誤りがあるように思えてならない。

たとえば、産業界を眺めても優れた最高品質のものが輸出商品として流通するのが基本であるが、農産物といえどもその例外ではない。現実にケニアのバラやマレーシアのキクを見ればその品質の高さに驚く。輸入切り花は決して品質が悪いわけではなく、輸入品が国産品よりも高価格で取引されている例は多い。新鮮さはどうなのであろうか。実は多くの場合は輸入品の方が新鮮なのである。たとえばマレーシアやインドなどの花は、夕方発送すれば翌朝に日本の空港に到着し、輸入業者に届くのである。その上、少なくとも日本の空港に届くまではすべてコールドチェーン体制で管理されており、空港到着時の品温が何℃になっているかまでしっかりと調査している。しかし、日本に着いたとたんに多くの場合は常温流通になってしまう。もちろん国産品も常温流通している。これで花き消費大国として、流通体制が整っているといえるのであろうか。

トレサビリティについては驚くべき徹底さで実施されている。たとえば、ケニアのいくつかの農場では、輸出された一束ずつにバーコードが着けられ、誰が選別、結束を行ったのか、そして、ハウスのどの場所で誰が担当し、どのような栽培経歴で生産したのかが追跡でき、クレームに対応できるようにしている。ケニアではヨーロッパ向けの花束加工まで行っているが、この一束ずつにも同様の追跡が出来るようになっており、しかもヨーロッパの消費者に対して日持ち保証までしている。ちなみに、切り花の日持ち保証を行うのは世界の大勢であるが、まだ、日本ではその動きは緩慢である。ヨーロッパでは無農薬栽培が普通であるが、日本の現状は、食べるものではないからという甘えが強く残っており、日本が安全であるというのはいささか心許ない。このように書けば、外国がすべて優れているような誤解を受けそうだが、もちろん、国によっては安全性や品質管理に問題のある場合もある。しかし、品質管理が悪く、単に低賃金を活用して安価な産物を輸出する国は、一時的には活躍しても、長期的に見れば驚異にはなり得ないと考える。

輸入が増えるのは、あらかじめ価格設定できる商品が、安定的に大量供給されることに最大の理由があるが、一方で、輸出国や欧米での流通の現状を見ると、我が国の自惚れともいえる自己満足にまずは反省して、国内の生産流通を再検討することが何よりも輸入対策になるように思える。

愛　知　産　青　果　物　の　動　向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか　：±２％台以内
や　や　：±３～５％台
かなり　：±６～15％台
大　幅　：±１６％以上

○　名古屋市中央卸売市場（品目：かき）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１９年実績	２,２８３	２３３（１０％）	２５４	－	和歌山（７１％） 岐阜　（　９％）
２０年見通し	２,５００	２５０	２１０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
愛知からは、次郎柿を中心に筆柿などを入荷。春先から天候に恵まれ、カメムシの被害も少ないことから生育は順調で、やや前進気味。着果が多いことから、小玉傾向が見られる。食味は良好。１０月に入って朝晩と昼の温度差が広がれば、着色も良くなるであろう。 入荷量は、少なかった前年をかなり上回り、価格は、前年を大幅に下回る見込み。	各産地で固有の品種があるほか、新たな品種が次々と出ている状況である。豊橋地区では、従来の次郎柿に加え、早秋なども取り入れられつつある。今後も、糖度が高く果肉がやわらかい品種や種なし品種と従来の品種とのバランスをとりながら対応していただきたい。 店頭やテレビなどを活用して産地紹介を行い、販売拡大につなげてほしい。

○　東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１９年実績	５４８	４７２（８６％）	３０５	２９１	静岡　（１１％） 福島　（　１％）
２０年見通し	６５０	－	２２０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
愛知中心に静岡などから入荷する。 栽培面積はやや減少している。昨年晩霜の影響から入荷量は大幅に減少した。今年については、夏期の干ばつ等により小玉傾向となっている。入荷量は少なかった前年を大幅に上回り、価格は大幅に下回ると見込まれる。	例年、出荷量の波が大きく、売場の確保に苦慮しているので、安定的な出荷に努めてほしい。 また、出荷にあたっては昨年概ね良好であったが、一時期先割れの大きいものが秀品に混入していたので注意して欲しい。

関　連　指　数

項目 / 年月		消費者物価指数（全国　平成17年＝100　愛知県　平成17年＝100）				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年平均	100.3	103.1	109.3	102.7	103.1
	20年 5月	101.7	104.0	104.2	106.8	105.2
	6月	102.2	104.6	110.8	107.2	104.8
	7月	102.4	101.9	102.9	107.7	105.6
愛知県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年平均	100.5	100.3	111.1	100.7	103.5
	20年 5月	101.4	96.8	103.3	103.5	105.0
	6月	101.8	101.2	105.2	104.1	102.7
	7月	102.2	99.6	104.4	104.9	103.1

資料　全　国‥総務省統計局「消費者物価指数月報」
　　愛知県‥愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

項目 / 年月	農業物価指数　（平成17年＝100）				
	農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
19年平均	97.6	95.0	100.6	110.1	99.5
20年 4月	97.9	93.1	106.8	82.4	100.3
5月	94.9	92.9	101.2	82.8	102.8
6月	94.8	92.9	108.0	103.9	102.7
7月	94.8	93.3	97.8	126.3	103.7

資料　農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

名古屋市小売価格（円）

品目 / 単位 / 年月	うるち米(単一品種、「コシヒカリ」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご（ふじ）
	5kg	1kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年平均	2,229	147	153	589	440	269	137	295	203	530	629	206	535
20年 5月	2,232	146	188	605	297	281	150	354	177	420	527	200	508
6月	2,248	152	172	656	370	293	149	378	178	427	519	212	561
7月	2,223	157	199	631	279	312	133	431	189	432	523	197	588

品目 / 単位 / 年月	みかん	グレフルプリーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウフイルーツ	緑茶（せん茶）	カーネーション	きく	バラ	豚肉（ロース）	牛肉（ロース）	まぐろ
	1kg			100g	1kg		100g	1本			100g		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年平均	689	356	509	165	258	705	602	163	170	315	221	776	506
20年 5月	―	337	385	130	252	659	623	184	172	337	229	822	480
6月	―	341	371	―	248	682	620	150	159	324	222	844	481
7月	―	319	390	―	247	649	606	156	156	326	239	832	473

資料　総務省統計局「小売物価統計調査報告」

あいち農産物生産流通レポート　№424
平成２０年１０月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電話　（０５２）９５４－６４１７